

宮崎県拠点の
Webサイトは
こちらから

宮崎県拠点だより

事例紹介
ファイル #10

持続可能な農業に向かって!!

わが子の好きな

ぶどう

を作りたい

高鍋町の大西麻美さんは、パートナーの出身地である宮崎で新規就農して8年目。

移住する前は福岡で生花店を経営し、宮崎に来たことがきっかけで、植物を育てる農業をやりたいと思うようになりました。さらに次男が保育園に通い出すタイミングで、子どもたちの好きなぶどう栽培や6次産業を勉強し、新富町のきんかん畑を任されたことで、1年間を通して栽培から販売まで学ぶことができました。その後、小学校入学を機に、きんかん畑を引き継ぎ、ぶどうときんかんで就農をスタート。

新富町のぶどうハウスで
摘芯作業中の大西さん。

現在では、高鍋町の果樹園と合わせ約4,400㎡で、主に9種のぶどうと完熟きんかん「たまたま」を、行政やJA、先輩農家の皆さんに相談しながら、愛情を込めて栽培しています。

また、JAみやざき児湯地区本部のきんかん専門部会長も務めています。

2024年4月には認定農業者となり、加工品の販売にも取り組み始めました。

生産物や加工品(ゼリー)は、高鍋町や新富町の生産者直売所などで販売され、ふるさと納税の返礼品にも採用されています。

大西さんは、「これから、米作りや宿泊できる観光農園にも取り組んでみたい!、環境に配慮した生産方法なども勉強したい!」など、多くの抱負を持っています。また、「子どもを育てる上で農業はとても良い職業だということを、子育て世代の方々に伝えたい!」と生き生き営農されています。



地元の菓子店に加工を委託して、きんかんなどを原料としたゼリーを作りました。



拠点のうごき

●5月21日

中山間地域における「ドローン水稲直播」の現場を訪問

五ヶ瀬町では、令和4年度から中山間地域における高齢化・耕作放棄地対策の取組として、農業用ドローン（T-10）を活用した「鉄コーティング水稲直播栽培」の実証試験に取り組んでいます。

今回のドローン播種は、農業支援サービス事業体として活動している（株）タスクルが地元の農業者からの依頼を受け、三ヶ所戸川地区にある棚田の水田15a（4区画）で行われました。農業者からは、田植えに係る時間が大幅に短縮されたとの声がありました。



6月は食育月間

毎月19日は「食育の日」です。

食育とは食生活を通じて、健康な身体と心を育むことにつながります。栄養バランスや食品ロス削減などについて、正しい知識を身につけましょう。

食育を推進する
優れた取組を募集します！

第10回

食育活動表彰

6月上旬
募集開始！



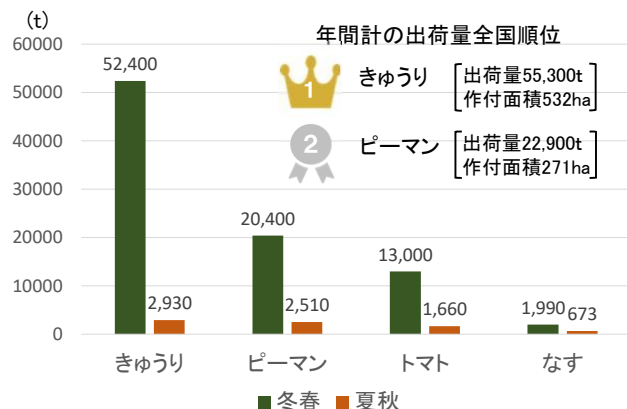
食育の推進

データで見る宮崎の野菜！！

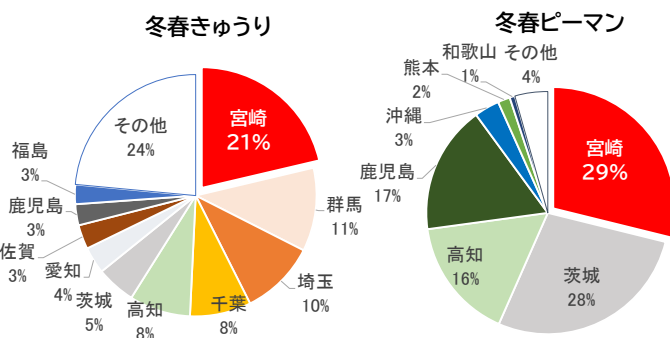
○令和6年産指定野菜の作付面積、収穫量、出荷量が公表されました。指定野菜のうち「きゅうり」の年間出荷量は全国1位、「ピーマン」の年間出荷量は全国2位となっています。

○品目季節区分別の出荷量全国シェアでは、冬春きゅうりが21%、冬春ピーマンが29%を占め、いずれも宮崎県が全国1の産地となっています。

令和6年産指定野菜（果菜類） の出荷量（宮崎県）



令和6年産の品目季節区分別 全国シェア



資料：農林水産省「令和6年産指定野菜（春野菜、夏秋野菜等）の作付面積、収穫量及び出荷量」

●本紙の記載内容や農政についてのご質問、ご意見等お気軽にお問い合わせ下さい。

●宮崎県拠点 地方参事官室
TEL 0985-24-2365
〒880-0801 宮崎市老松2丁目3-17

編集後記

5月中旬、実家の田んぼの代掻きをしていると、かわいいお客さん“亀”が、ひょっこり顔を出しました。その可愛らしさに癒されながら順調に作業は進みました。

今年も異常気象が心配ですが、“亀”のご利益を得て、宮崎らしい気候であることを願い、豊作の秋を楽しみに稲の成長を見守りたいと思います。(n)